

ひ ょ っ こ り ほ ん !

天気の良い日が続いていますが、体調も今一つという人も多いのでは。休みの日も朝読書のように少しでも本を手にする時間があると落ち着きますよ。



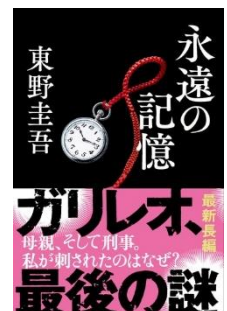
令和8年9月18日
国府津中学校図書館
学校司書 比企しずか

東野圭吾氏 追悼…



作家の東野圭吾さんが7月23日、大腸がんのため68歳で亡くなりました。加賀恭一郎シリーズ、ガリレオシリーズ、マスカレード・ホテルシリーズなど数々の小説で知られていますが、1985年に刊行されたデビュー作「放課後」から今年8月5日に発売された「永遠の記憶」まで、著作の合計は106冊。国内の累計発行部数は、なんと1億を超すそうです。

国府津中の図書館でも東野氏コーナーをつくりましたので、読んだことがあるよ！という人も、読んだことがないなあ、という人もぜひ東野ワールドを味わってみてください。どの作品もかなり登場人物が多いので、そこは心してかかりましょう。



新着本 貸し出しは2週間



- 「水車小屋のネネ」(津村記久子 著 毎日新聞社)
- 「時をかけるゆとり」(朝井リョウ 著 文藝春秋)
- 「風と共にゆとりぬ」(朝井リョウ 著 文藝春秋)
- 「そして誰もゆとらなくなった」(朝井リョウ 著 文藝春秋)
- 「月がきれいな夜に、誰かに思い出してほしかった」(川井紗生 著 サンマーク出版)
- 「ブルーロック」(金城宗幸・ノ村 優介 著 講談社) 1～25巻
- 「伝記を読もう」(谷悦子 ほか著 あかね書房) 第3期～第5期 計12冊

📖 新見南吉・かこさとし・北里柴三郎・ジョン万次郎・椋鳩十・円谷英二・手塚治虫・前島密 …など



勝手にアカデミー賞

夏休みは映画館に行った人も多いのでは。アニメ勢が話題をさらっていましたが、「開戦前夜」「八月の声を運ぶ男」「あの星が降る丘で」など、戦争映画もどれも秀逸でした。機会があればぜひ観てみてくださいね。

「白鳥とコウモリ」(東野圭吾 著 幻冬社)



人望に厚い弁護士の白石健介が刺殺された。容疑者として浮上した倉木達夫は「私がやりました」と自供をし、この事件は解決したかに見えた。しかし、倉木の息子と白石の娘は事件の状況と背景に違和感を抱き、協力して事件の真相を突き止めようとするのだが…。

中盤まで物語が淡々と進みますが、終盤で一気にひっくり返ります。殺人の動機や背景を考えると、何ともやるせないモヤモヤ感で胸が苦しくなりますが、これがまさに東野氏が描く人間模様の醍醐味と言えるかも。映画では何が白鳥で何がコウモリなの？と今ひとつピンとこないですが、原作を読むとすっきりしますよ。

「ちいかわ」8巻 (ナガノ 著 講談社)



「簡単な討伐で100倍の報酬」「食べ物全部無料」という謎の仕事の広告につられて、島にやって来たちいかわたち。島民たちは伝説の生き物と言われるセイレーンを討伐してほしいと、ちいかわたちに依頼する。セイレーンはとある事件が原因で、島民たちを苦しめていた。

色々な方面から、今年の映画界に激震を与えた作品。結局、誰がどこで何をどうすればよかったのか、さまざまな物議を醸す結末でした。因果応報というのはまた少し違う気もしますが、結局は言うべきことは相手にきちんと言ったほうがいい、ということなのでは。それにしても、ちいかわは何の動物なのでしょう？

「ブルーロック」(金城宗幸・ノ村 優介 著 講談社)



日本フットボール連合は日本代表をW杯優勝に導くため、極秘で育成寮“青い監獄＝ブルーロック”を設立し、300人の高校生ストライカーを招集。日本代表のエースストライカーとなってW杯で優勝するという夢を持つ高校生プレイヤー・潔世一(いさぎよいち)は、人生を変えようとブルーロックへの参加を決意する。

👉コミックにつき貸し出しはできません👊

図書館には現在25巻まで入荷しており、来月40巻までそろそろ予定です。映画は原作5巻あたりまでの話だそうです、この先世一たちがどのように覚醒し、周りを蹴落としていくかが楽しみです。がんばれ、エゴイストどもよ！！！！！！！！！！